

市章のいわれ

山の都を象徴する“岳”の形象体文字を図案化したものです。明治38年3月に公募を行い、翌明治39年に町章として採用、同年2月11日に公示されました。市制施行後も引きつづき市章として制定したものです。

市の花:コバノミツバツツジ
(いちばんつつじ)



市の木:イチイ

高山市民憲章

昭和41年11月1日 市告示第64号
改正 昭和56年5月11日 市告示第13号

わたくしたちは乗鞍のふもと、 山も水もうつくしい飛騨高山の市民です。

- ・うつくしい郷土に生きるわたくしたちの期待とねがいをこめて、この憲章を定めます。
- ・全市民は力をあわせて、この憲章を守り、理想のまちを建設しましょう。

たがいに信じ、助けあい、 心のなかにもきれいな花を咲かせましょう。

- ・礼儀を守り、感謝の念を深め、たびの人をあたたくむかえる。
- ・みんなが仲よくつきあい、他人のわたくしごとをとやかくいわない。
- ・老人をうやまい、恵まれない人をいたわり、進んで社会のためにつくす。

環境をととのえ、きまりを守り、 みんなのしあわせを大事にしましょう。

- ・公害をなくし、道やみぞ、川をきれいにし、ごみは必ずごみ箱に入れる。
- ・城山の木や小鳥、宮川の魚などをかわいがり、まちを花でかざる。
- ・時を大切にし、資源を愛し、交通道徳を守り、ひとのめいわくになることはしない。

からだをきたえ、元気で働き、 明るい豊かなまちをきずきましょう。

- ・衛生に注意し、スポーツを楽しみ、健康なからだをつくる。
- ・働くことに喜びをもち、仕事の場を明るくして、能率をたかめる。
- ・郷土の産業に望みをかけ、その発展に力をあわせる。

文化をたつとび、伝統を生かし、 正しい教養を身につけましょう。

- ・伝統ある高山の文化に深い愛情をもち、文化財を尊重する。
- ・文化諸活動を盛んにして友愛を深め、品性の向上に役立てる。
- ・国際理解をたかめ、時代の進歩に歩調をあわせる。

こどもを愛し、健やかに育て、 夢と誇りをもたせましょう。

- ・こどもの将来をよく考えて、幼いときからしっかり家庭のしつけをする。
- ・こども会の活動を見守り、こどもの自主性を正しく育てる。
- ・こどもは社会の子、よい環境をあたえ、みんなのあたたかい心でみちびく。

高山市の歌

昭和41年11月1日 市告示第65号

作詞 辰巳 利郎

作曲 長尾 量平

1 番

しろがねの 雪のアルプス 真向いに
紫匂う 朝がすみ
百重（ももえ）の山を めぐらして
人の和清く 展（ひら）けゆく
平和の都 高山市

2 番

宮川の 瀬音（せおと）清らに さみどりの
柳をひたし ゆくところ
偲（しの）ぶにあまる 数々の
史蹟にかおる 世々のあと
歴史の都 高山市

3 番

城山の 花にもみじに 春秋の
祭も床（ゆか）し うまし郷土（さと）
今躍進の 意気あらた
文化産業 栄えゆく
希望の都 高山市

高山市の歌 辰巳利郎 作詞
長尾量平 作曲

力強く、
行進曲風に

しろが-ね-の- ゆきのアルプス まめい に
むらさきにおう あさがすみ ももえの やま-を-
めぐらして- ひとのわきよく ひらけゆく へい
わ-のみや こ-た-か-やま し-

高山市平和の日

平成25年9月27日 市告示第117号

9月21日を「高山市平和の日」として制定。

制定趣旨

戦後68年が経過し、悲惨な戦争の記憶が薄れる中、改めて市民一人ひとりが守り引き継ぐべき美しい郷土や平和の大切さについて考え、家族や友人、地域などで語り合う機会が必要となっている。

一方、国外に目を向けると、現在も紛争や飢餓、貧困が絶えず、多くの尊い命が奪われており、これらは一刻も早く解決していかなければならない人類共通の課題である。

本市は、全世界から多くの観光客が訪れる国際観光都市である。昭和41年、国際連合が国際観光年の指定を行うにあたり定めた「観光は平和へのパスポート」という標語は、国際観光のもたらす異文化への共感や評価が世界平和に大きな役割を果たすものであることを明らかにしている。さらには、同連合が9月21日を「国際平和デー」として定め、加盟各国等に世界平和に関する取組みを求めていることを鑑みると、本市が平和な世界の実現を国内外に訴えていくことが必要である。

こうした状況を踏まえ、市民一人ひとりに平和への願いと感謝の気持ちが浸透し、その思いが未来へ引き継がれることを目指すとともに、国内外に向けて恒久平和の実現を訴えていくため、9月21日を「高山市平和の日」とする。

高山市平和都市宣言

平成29年3月24日 市告示第220号

高山市は、飛騨山脈に代表される豊かな自然に囲まれ、祭りや匠の技などの伝統文化を育み、「国際観光都市」として、周りとのつながりを大切にしてきました。

さらに、国際平和デーを「高山市平和の日」と定め、飛騨高山の地から、世界に向けて恒久平和の実現を訴えています。

しかし、世界の各地では、紛争・テロ・飢餓が後を絶たず、核兵器の脅威にさらされている現実があります。

私たちは、世界中の人々が安心して平和に暮らせる日が必ず来ることを願い、行動します。

私たちは過去から学び、未来へ伝えていきます。

戦争と核兵器の悲惨さ、愚かさ、恐ろしさ、そして命の大切さを。

私たちは守り続けます。

豊かな自然、誇れる伝統文化、人と人との絆を。

私たちは大切にします。

多様な文化を理解し、尊重することを。

私たち高山市民は、ここに高山市が永久に平和都市であることを宣言します。

高山市第八次総合計画 基本計画(抜粋)

1. 基本理念

市民が主役という考えのもと、多様な主体が「協働」してまちづくりに取り組むとともに、先人たちが築き上げてきたまちの財産を継承しながら、新たなまちの魅力や個性を「創造」し、将来につなげていくことで、市民が夢と希望を持ち、心豊かに暮らしていくことのできる「自立」したまちを目指す

2. 都市像

人・自然・文化がおりなす 活力とやさしさのあるまち 飛驒高山

本市が誇る魅力、財産である「人」・「自然」・「文化」が様々な形で組み合わせ、活かしあうことにより、新たな活力や元気が生まれるとともに、やさしさがあり、幸せが感じられるまちになることを将来の姿として描きます。

3. まちづくりの方向性

本市の都市像を実現するために、次の3つのまちづくりの方向性を定め、施策を展開します。

まちづくりの方向性1

多様な働き方と優れた産品、サービスで財を稼ぐ

まちづくりの方向性2

心身の健康と文化、教育で心豊かな暮らしを実現する

まちづくりの方向性3

人と人がつながり、安全で美しさと便利さが共存する持続可能なまちをつくる

総合計画の変遷

区分	基本理念	将来都市像・主要指標(人口)	基本施策
第一次 (S44～S50)		産業観光都市 ・主要指標人口(S50) 65,000人	①産業の振興 ②観光の発展と資源の開発、保全 ③社会資本の充実 ④交通輸送と安全性の確保 ⑤人間能力の開発と文化性の向上 ⑥土地利用計画 ⑦水資源の確保
第二次 (S51～S55)		伝統文化を生かし、自然と快適な生活環境との調和のとれた発展をめざす産業観光都市 ・主要指標人口(S60) 66,000人	①調和のある基盤の創造 ②豊かな市民生活 ③教育文化の向上 ④伝統と特色を生かした産業の振興
第三次 (S56～S60)	①歴史的風格を持つ都市づくり ②地域間交流を促す都市づくり ③市民生活の向上を目指す都市づくり	自然を愛し、歴史を培い ゆたかな市民生活と活力ある産業、ふれあいの観光が調和を醸す、伝統的文化都市 ・主要指標人口(S65) 70,500人	①土地利用の構想 ②より文化的な都市環境の創造 ③より機能的な都市基盤の創造 ④より連帯感がある生活環境の創造 ⑤より豊かな人間性の創造 ⑥より活力ある生産環境の創造
第四次 (S61～H2)	①歴史的風格を持つ都市づくり ②地域間交流を促す都市づくり ③市民生活の向上を目指す都市づくり	自然を愛し、歴史を培い ゆたかな市民生活と活力ある産業、ふれあいの観光が調和を醸す、伝統的文化都市 ・主要指標人口(S70) 70,000人	①土地利用の構想 ②より文化的な都市環境の創造 ③より機能的な都市基盤の創造 ④より連帯感がある生活環境の創造 ⑤より豊かな人間性の創造 ⑥より活力ある生産環境の創造
第五次 (H3～H7)	①歴史的風格を持つまちづくり ②地域の活力を促すまちづくり ③市民生活の向上を目指すまちづくり	自然を愛し、歴史を培い 活力ある産業、ふれあいの観光と豊かな市民生活が調和し創造性あふれる“伝統的文化都市” ・主要指標人口(H12) 67,500人	①潤いのある都市空間のまちづくり ②快適で安全な生活のまちづくり ③心のかよう福祉のまちづくり ④豊かな心を育む教育、文化のまちづくり ⑤活力ある産業とふれあいの観光のまちづくり
第六次 (H8～H17) 【前期】 (H8～H12) 【後期】 (H13～H17)	①自然と調和したおちつきのあるまちづくり ②文化をはぐくむいきがいのあるまちづくり ③もてなしの心とにぎわいのあるまちづくり	緑と歴史の香りに包まれた住みやすく 活力あふれる伝統的文化都市「飛騨高山」 ・主要指標人口(H17) 67,000人 ・主要指標人口(H17) 67,700人(H12.5改定)	①飛騨の中核として役に立つまちづくり ②快適でやさしさとゆとりのあるまちづくり ③いきがいと思いやりのある福祉のまちづくり ④豊かな心をはぐくみ伝統文化の香るまちづくり ⑤ふれあいと交流のさかんな活力あるまちづくり ⑥市民参加のわかりやすいまちづくり
第七次 (H17～H26) 【前期】 (H17～H21) 【後期】 (H22～H26)	住みよいまちは 行きよいまち	やさしさと活力にあふれるまち「飛騨高山」 ・主要指標人口(H26) 100,000人 ・主要指標人口(H26) 95,000人(H21.12改定)	①計画的な土地利用をめざして ②「やさしさ」のあるまちをめざして ③「すみよさ」のあるまちをめざして ④「にぎわい」のあるまちをめざして ⑤「ゆたかさ」のあるまちをめざして ⑥個性あるまちをめざして ⑦構想の着実な推進をめざして
第八次 (H27～R6) (R2.3改定)	市民が主役という考えのもと、多様な主体が「協働」してまちづくりに取り組むとともに、先人たちが築き上げてきたまちの財産を継承しながら、新たなまちの魅力や個性を「創造」し、将来につなげていくことで、市民が夢と希望を持ち、心豊かに暮らしていくことのできる「自立」したまちを目指す	人・自然・文化がおりなす活力とやさしさのあるまち「飛騨高山」 ・計画人口(R6末) 82,000人	(※基本分野における基本目標) ①魅力と活力にあふれるまち ②環境と調和した地球にやさしいまち ③生きがいと誇りを持ち豊かな心を育むまち ④やさしさにつまれ健やかに暮らせるまち ⑤安全で安心して快適に住めるまち ⑥みんなでつくる持続可能なまち(H27～H31) (※まちづくりの方向性) ①多様な働き方と優れた産品、サービスで財を稼ぐ ②心身の健康と文化、教育で心豊かな暮らしを実現する ③人と人がつながり、安全で美しさと便利さが共存する持続可能なまちをつくる(R2～R6)

高山市の概要

【位置】

高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を飛騨市、下呂市、郡上市、大野郡白川村、長野県、富山県、福井県、石川県に囲まれています。

本庁所在地は、東経 137 度 16 分、北緯 36 度 09 分、海拔 573mに位置しています。

【地理・地形】

高山市は、東西に約 81km、南北に約 55km あり、面積は 2,177.61km²の日本一広い市です。面積の約 92.1%は森林で占められ、山や川、溪谷、峠などで地理的に分断され、標高差も 2,000mを超えるなど、地形的に大きな変化に富んでいます。

北東部には槍ヶ岳、乗鞍岳、穂高連峰などの飛騨山脈(北アルプス)を擁し、中央部には宮川が南から北へ流れ、南部には飛騨川が北から南へ流れ、南西部には庄川が南から北へ流れています。

標高の最高は奥穂高岳の 3,190m、最低は上宝町吉野の 436mです。

【気候】

高山市の気候は、海拔高度の高い所が多いため、東北地方北部や北海道南部と似て夏は涼しく、冬は雪が多く厳しい寒さとなります。全体的には内陸気候であり、特に高山地域は盆地のため内陸性が顕著にあらわれます。飛騨山脈(北アルプス)をはじめ標高の高い山岳地域の気候は、山岳気候となります。

平年の年平均気温は 11.4℃、8月の最高気温の平均は 31.0℃、2月の最低気温の平均は-4.9℃です。過去の最高気温の極値は令和元年 8 月 13 日の 37.7℃、同じく最低気温の極値は昭和 14 年 2 月 11 日の-25.5℃となっています。平年の観測日数は、最高気温 25℃以上の夏日は 110.5 日、最低気温 0℃未満の冬日は 112.5 日で、最高気温 0℃未満の真冬日は 7.7 日に及びます。なお、最低気温 25℃以上の日数は 0.0 日です。

風速は年平均 1.7m/s で、一年を通じて風の弱い地域です。

降水量は年 1,776.5mm と、飛騨地方の中では比較的少ないところとなっています。

平年の年最深積雪は 55cmですが、積雪の最深は 128cm(昭和 56 年 1 月 8 日)です。

※上記のデータは、高山特別地域気象観測所(高山市桐生町)のもので。

※平年値は 1991 年から 2020 年の統計によるものです。

※極値は、1899 年 5 月からの統計によるものです。

【沿革】

高山には、市内を流れる宮川や川上川などによって形成された沖積世の平地や、河岸段丘に面した山麓の緩斜面、扇状地などに、縄文・弥生・古墳の各時代の遺跡が多数存在します。それは古くから人々がこの地に住みつき、豊かな自然の恵みを受けつつ暮らしてきたあかしです。

飛騨地方が大和朝廷へ服属したのは諸説様々ですが、5 世紀以降のことと思われます。奈良時代の国府は高山盆地にあり、国分寺(総和町)と国分尼寺(辻ヶ森三社)が建てられました。天平勝宝元年(749)大野郡大領正七位下飛騨国造高市麻呂(ひだのこくぞうたけちまろ)が国分寺へ知識物を献じ

て外従五位下を賜ったとあり(続日本紀)、国分寺と大野郡の名が初見されます。養老賦役令に「凡ソ斐陀国ハ調庸俱二免ゼヨ。里ゴトニ匠丁(木工)十人ヲ点ゼヨ。……」とあり、飛驒国は、匠丁を出すことによって庸調が免ぜられていました。それは「今昔物語集」での飛驒匠と絵師百濟川成との腕比べの話や、「万葉集」に詠まれた「かにかくに物は思はじ飛驒人の打つ墨縄のただ一道に」のように、黙々と働く「ひだびと」の姿を通して今に伝えられています。

「高山」の地名は、永正年間(1504～21)に守護代多賀氏の一族高山外記が、現在の城山に城砦を築いた頃にさかのぼります。城内に近江の多賀天神を祀り、天神山・多賀山と称したことに由来するともいわれています。

後に京極氏の被官で、守護代多賀氏を祖とするとも伝える三木氏が益田郡に勢力を伸ばし、大永の頃(1521～28)大野郡にも進出し、多賀氏をしのいで実権を握りました。三木自綱は斎藤道三の娘を迎え、信長美濃入国後は信長に近づき、天正7年(1579)松倉城を築城して本拠とし、天正10年(1582)江馬輝盛を破り、白川郷を除く飛驒を平定しました。

自綱は、秀吉に対抗した佐々成政と結びましたが、天正13年(1585)秀吉の飛驒平定の命を受けた金森長近が越前大野城から兵を進め、自綱を滅ぼしました。翌天正14年、飛驒に封ぜられた金森長近は鍋山城に入り、天正16年天神山に築城を開始、松倉・鍋山城下の商人を移し、白川郷の照蓮寺と和親の誓約を結び、城下に寺地を設け、城下町の形成に着手しました。

城下町は武家屋敷、町人屋敷、寺院群に区分され、武家屋敷は城下江名子川左岸、南は大隆寺下まで、城下西麓から中橋までの宮川右岸、北麓空町一帯、江名子川北岸に及ぶあたりに配置されていました。三代重頼の弟重勝が分家して江名子川北岸に左京屋敷を建て、重頼は娘のために宮川左岸に向屋敷(今の高山陣屋)を建てると、そのあたりまで町家が広がりました。

町人屋敷は、一番町・二番町・三番町が宮川右岸に南北に、それを東西に横切る形で安川町・肴町がそれぞれつくられ、南北方向に通りを発展させた町並でした。城下町によくみられる見通しがきかない道筋は、町の南部と北部に設けられました。

城の北方向には白川郷から照蓮寺13代明了を迎えて、照蓮寺を建てました。その周囲に寺内町が発達して照蓮寺がこれを管轄しました。東山一帯には寺院が集められ、大雄寺・素玄寺・天照寺・宗猷寺といった金森氏にゆかりのある寺が建てられました。金森氏が出羽上ノ山に移封されるまでの金森6代107年間には、京文化および江戸文化を受け入れて、今日の高山の基盤が形成されました。

幕府は元禄5年に飛驒を収公したあと、金森氏の向屋敷に代官所を設立し、関東郡代伊奈半十郎忠篤を初代の代官として兼任させ、徳川幕府直轄の天領として高山陣屋において代官・郡代が25代177年間にわたり治めました。

高山陣屋に代官が常時在勤するようになったのは、享保13年(1728)長谷川忠崇からのことでした。高山城は、加賀藩主前田綱紀の家臣永井織部に守らせていましたが、元禄8年幕命により取り壊されました。「飛驒の高山御城の御番 つとめかねたよ加賀の衆が」といまも高山盆踊りの歌詞に残されています。この時代には江戸文化の影響を強く受けるとともに、その名を広く知られる高山祭が盛んとなり、屋台が造られ、市が行われるなど、社会的、文化的な基盤が確立されました。

人口は元禄8年(1695)1,259軒3,757人、延享元年(1744)1,513軒7,212人、天保13年(1842)1,671軒9,237人で、これは当時の岐阜町より人口が多く、有数の都市でした。

明治維新により東山道鎮撫使竹澤寛三郎が入国し、高山陣屋に天朝御用所の高札を建てました。慶応4年5月に飛驒県がおかれ、同年6月高山県となり、明治4年筑摩県に移管されるまでの3年6か月間、梅村速水、宮原積の二人の知事により治められました。

明治 8 年に高山一之町村・二之町村・三之町村が合併して高山町となり、また、大野郡片野村ほか 22 か村が合併して大名田町となりました。翌明治 9 年に高山町は岐阜県の管下となり、明治 22 年に 15,385 人で新しい町制を実施し、大正 9 年の第 1 回国勢調査の人口は 16,344 人でした。その後大正 15 年に灘村を合併、昭和 9 年にはその後の高山および飛騨の発展に大きく寄与した高山本線が開通、昭和 11 年 11 月 1 日に大名田町を合併して市制を施行、「高山市」として発足しました。昭和 18 年上枝村、昭和 30 年大八賀村を合併しました。

平成 17 年 2 月 1 日には、丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、国府町、上宝村と合併し、日本一広大な面積を有する新しい高山市が誕生しました。

現在、平成 27 年度からスタートした高山市第八次総合計画に基づき、「人・自然・文化がおりなす活力とやさしさのあるまち 飛騨高山」を都市像に掲げ、多様なまちの魅力や財産を活かしあうことにより、新たな活力や元気が生まれるとともに、やさしさがあり、幸せが感じられるまちの実現を目指しています。

高山市のあゆみ

昭和 11 年	11 月 1 日	高山町と大名田町が合併 市制施行 人口 30,857 人 岐阜県内 3 番目の市 市役所は旧高山町役場（神明町 4 現市政記念館）
昭和 12 年	4 月 10 日	上野平開墾起工式
昭和 13 年	10 月 5 日	安房峠開通
昭和 18 年	4 月 1 日	上枝村と合併 人口 39,471 人
昭和 23 年	7 月 20 日	乗鞍登山バス運行
昭和 25 年	4 月 1 日	朝日村・高根村が益田郡から大野郡へ編入
昭和 29 年	4 月 1 日	久々野町制施行
昭和 30 年	4 月 1 日	大八賀村と合併 人口 48,839 人
	4 月 15 日	高山祭（春）を初めて NHK がテレビ放送
昭和 31 年	6 月	地方財政再建促進法の適用を受ける（昭和 36 年解除）
	7 月 29 日	県立斐太高等学校、高山高等学校が放火により焼失
昭和 33 年	7 月 25 日	集中豪雨により市内で大きな被害 国鉄高山線は復旧に 15 日かかる
昭和 35 年	6 月 9 日	高山祭屋台（春 12 台、秋 11 台）が国重要有形民俗文化財に指定
	7 月 29 日	アメリカ合衆国のデンバー市と姉妹都市提携
	10 月	御母衣ダム完成 12 月荘川桜移植（旧荘川村）
昭和 37 年	3 月 9 日	交通安全都市宣言
	6 月 17 日	午前 9 時 55 分 焼岳噴火（旧上宝村）
昭和 38 年	2 月 11 日	明るく正しい選挙都市宣言
昭和 39 年	11 月 1 日	国府町制施行
昭和 40 年	10 月 24 日～29 日	岐阜国体開催 高山市：バレーボール・ハンドボール会場、旧上宝村：山岳会場（9 月開催）
昭和 41 年	11 月 1 日	高山市民憲章制定
昭和 42 年	7 月 25 日	飛騨体育館オープン
昭和 43 年	9 月 17 日	屋台会館オープン
	10 月 28 日	市庁舎が馬場町に移転
		古い町並（恵比須臺組）で電柱撤去
昭和 44 年		高根第一ダム（9 月）第二ダム満水位営業運転開始
昭和 46 年	7 月 1 日	飛騨の里オープン
	11 月 1 日	長野県松本市と姉妹都市提携
		高山市への観光客が年間 100 万人を突破
昭和 47 年	4 月	下水道事業に着手 供用開始は昭和 54 年 6 月 1 日
	10 月 1 日	高山市市街地景観保存条例施行
	12 月 1 日	国道 41 号高山バイパス完成
	12 月 25 日	市の木「いちい」、市の花「いちばんつつじ」（和名こばのみつばつつじ）指定
昭和 48 年	7 月 1 日	乗鞍スカイライン開通（旧丹生川村）

昭和 49 年	2 月 15 日	東山地区などを市街地景観保存地区として指定
	5 月 24 日	宮川防災ダム完成 (旧宮村)
昭和 50 年	2 月 17 日	飛騨春慶が国の伝統的工芸品に指定
	3 月 22 日	高山市公設地方卸売市場開設
	5 月 10 日	一位一刀彫が国の伝統的工芸品に指定
	11 月 8 日	国立乗鞍青年の家完成
昭和 51 年	10 月 31 日	高山市図書館が上二之町に完成
		高山市への観光客が年間 200 万人を突破
昭和 53 年	9 月 18 日	平湯トンネル開通 (旧丹生川村・上宝村)
	10 月 25 日	国府町有線放送テレビ放送開始
昭和 54 年	2 月 3 日	高山祭屋台行事が国重要無形民俗文化財に指定
	2 月 3 日	三町 (古い町並) が国重要伝統的建造物群保存地区に選定
	8 月 22 日	洞谷災害発生 栃尾地区で大きな被害 (旧上宝村)
昭和 55 年	4 月 1 日	飛騨美濃有料道路・坂本トンネル開通 (旧清見村)
昭和 56 年	1 月	56 豪雪 高山市内の積雪累計は約 7m
	1 月 4 日	大雪で荘川中学校体育館が崩れる
昭和 57 年	10 月 22 日	神奈川県平塚市、福井県武生市 (現越前市) と友好都市提携
	11 月 1 日	市民文化会館オープン
昭和 61 年	3 月 24 日	国際観光モデル地区に指定
	4 月 11 日	国際観光都市宣言
		金森領国 400 年記念各種行事開催
昭和 63 年	9 月 23 日～ 10 月 30 日	88 飛騨・高山食と緑の博覧会 開催 入場者約 70 万人
	10 月 13 日	山形県上山市と友好都市提携
平成元年	2 月 18 日	JR 高山本線 にワイドビューひだ号導入
平成 3 年	10 月 28 日	飛騨自動車検査場完成 飛騨ナンバー交付開始
平成 4 年	4 月 1 日	ごみ処理券制度開始 (県内初)
平成 5 年	3 月 26 日	第 1 回市民海外派遣 (シンガポール)
平成 6 年	12 月	高山本線全通 60 周年記念 SL 運行
	12 月 15 日	高山消防庁舎完成
平成 7 年	6 月 10 日	飛騨エアパークオープン (旧丹生川村)
	6 月 20 日	いじめのない明るい都市づくり宣言
	10 月 8 日～15 日	第 5 回全国食文化交流プラザ「味フェスタ 95 ぎふ 」開催 入場者約 53 万人
平成 8 年	2 月 20 日～23 日	ぎふスズラン国体開催 (旧朝日村・久々野町)
	11 月 1 日	高山市役所新庁舎完成 (花岡町 2)
平成 9 年	8 月 1 日	福祉バス「のらマイカー」運行開始
	12 月 6 日	中部縦貫自動車道安房峠道路開通 (旧上宝村)

平成 10 年	8 月 20 日	高山駅周辺土地区画整理事業認可
平成 11 年	11 月 27 日	東海北陸自動車道荘川 IC 開通
平成 12 年	3 月 27 日	飛騨高山ビッグアリーナ完成
	8 月 1 日～12 日	全国高等学校総合体育大会開催（バスケットボール、アーチェリー）
	10 月 7 日	東海北陸自動車道飛騨清見 IC 開通
平成 13 年	12 月	国営飛騨東部第 1 土地改良事業完成
		高山市への観光客が年間 300 万人を突破
平成 14 年	3 月 21 日	中華人民共和国の麗江地区（現麗江市）と友好都市提携
	4 月 1 日	高山市潤いのあるまちづくり条例施行（県内初）
	9 月 26 日～30 日	第 8 回全国和牛能力共進会開催 飛騨牛が日本一に
平成 15 年	4 月 1 日	高山市男女共同参画推進条例施行
	5 月 15 日	乗鞍スカイラインマイカー規制開始（旧丹生川村）
	5 月 28 日	日和田ハイランド陸上競技場の全天候型トラック完成（旧高根村）
平成 16 年	4 月 23 日	高山市図書館「煥章館」オープン
	5 月 26 日	10 市町村が合併協定書に調印
	6 月 5 日	中山公園陸上競技場の全天候型トラック完成
	7 月	乗鞍山麓五色ヶ原の森開山（旧丹生川村）
	7 月 6 日	下二之町・大新町が国重要伝統的建造物群保存地区に選定
	9 月 21 日	美女街道・飛騨ふるさとトンネル開通
	10 月 20 日	10・20 豪雨災害 台風 23 号により大きな被害
	11 月 27 日	中部縦貫自動車道高山西 IC 開通（旧清見村）
平成 17 年	2 月 1 日	新高山市誕生（近隣 9 町村と合併し、日本一広い市が誕生）
	4 月 1 日	高山市誰にもやさしいまちづくり条例施行
	7 月 21 日	昭和児童公園（愛称：ポッポ公園）完成
平成 18 年	2 月 1 日	公募による新高山市 100 景を選定
	4 月 1 日	市の施設に指定管理者制度を導入
	4 月 3 日	地域福祉バス運行開始
	7 月 15 日	山王トンネル開通
平成 19 年	4 月 1 日	高山市美しい景観と潤いのあるまちづくり条例施行
	6 月 1 日	荘川総合センターオープン・荘川支所新庁舎完成
	9 月 29 日	中部縦貫自動車道高山 IC 開通
平成 20 年	1 月 28 日～30 日	常陸宮賜杯中部日本スキー大会開催
	3 月 28 日	西小学校体育館と総和保育園の合築工事が完成
	4 月 1 日	高山市ポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例施行
	4 月 4 日	高山市教育研究所が一之宮支所内に移転 不登校児童生徒が通う「であい塾」も隣接地に
	5 月 28 日	飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアがナショナルトレーニングセンター高地トレーニング部門の競技別強化拠点に指定

平成 20 年	7 月 5 日	東海北陸自動車道が全線開通
平成 21 年	4 月 1 日	市内 5 箇所に合併記念公園が完成
	6 月 27 日	高山駅の東西地区を結ぶ JR アンダーパス開通
	7 月 2 日	飛騨高山御嶽トレーニングセンターオープン
	7 月 18 日	アルプス展望公園「スカイパーク」が完成
	11 月 24 日～26 日	国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）との共催で ESCAP アジア太平洋・2009 バリアフリー高山会議を開催
平成 22 年	4 月 17 日	飛騨高山・森のエコハウスオープン
	4 月 24 日	飛騨高山ふるさと体験施設「秋神の家」オープン
平成 23 年	3 月 1 日	公共交通体系の再編を実施。中心市街地バス「まちなみバス」、地域バス「のらマイカー」を運行
	4 月 1 日	丹生川簡易水道、岩滝簡易水道、上野平専用水道を高山市水道事業に統合
	4 月 11 日	飛騨高山まちの博物館オープン
	5 月 1 日	高山市議会基本条例施行
	5 月 28 日	ペルー共和国のウルバンバ郡と交流に関する書簡を手交
	7 月 1 日	こくふ交流センターオープン・国府支所新庁舎完成
	7 月 4 日	中華人民共和国の昆明市と交流に関する覚書を締結
平成 24 年	2 月 14 日～17 日	ぎふ清流国体冬季大会開催（スキー競技）（会場：丹生川町、朝日町）
	4 月 21 日	中華人民共和国の昆明市と友好都市関係を樹立する意向書を締結
	6 月 10 日	第 1 回飛騨高山ウルトラマラソン開催
	6 月 26 日	東京都千代田区と「カーボンオフセット」の協定を締結
	7 月 16 日～17 日	ぎふ清流国体市民炬火リレー開催
	9 月 4 日	ルーマニアのシビウ市と友好都市提携
	9 月 29 日～ 10 月 9 日	ぎふ清流国体本大会開催（バスケットボール、アーチェリー、ハンドボール競技）（会場：飛騨高山ビッグアリーナほか 6 会場）
平成 25 年	4 月 1 日	飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアがナショナルトレーニングセンター高地トレーニング部門の競技別強化拠点に再指定
	4 月 1 日～ 翌年 3 月 31 日	第 1 回飛騨高山文化芸術祭開催（こだま～れ 2013）
	8 月 25 日	ペルー共和国のウルバンバ郡と友好都市提携
	9 月 22 日	高山国府バイパス開通
	9 月 27 日	9 月 21 日を高山市平和の日として制定
	11 月 2 日	国道 41 号小坂久々野トンネル開通
平成 26 年	4 月 1 日	高山市市民参加条例施行
	4 月 3 日	新穂高センターオープン
	8 月 17 日	豪雨災害 江名子町、石浦町で大規模な土砂災害が発生 清見町の宮前橋、河渡橋が流失

平成 26 年	9 月 21 日	高山市平和のシンボル「平和への絆」設置
	9 月 27 日	午前 11 時 52 分 御嶽山噴火
	11 月 7 日	フランス共和国のコルマル市及びコルマル都市圏共同体と経済及び観光分野における協力協定書を締結
	12 月	大雪で多数の倒木 市内各所で停電が発生
平成 27 年	4 月	全市域でまちづくり協議会の地域課題解決に向けた取組みがスタート
	4 月 1 日	福祉サービス総合相談支援センターを本庁及び各支所に設置
	4 月 1 日	高山市簡易水道事業の全 24 事業を高山市水道事業に統合
	10 月 30 日	平和サミット開催
平成 28 年	3 月 20 日	白山ユネスコエコパークの拡張登録が決定 対象エリアが荘川町全域に拡大
	4 月 25 日	日本遺産に「飛騨匠の技・こころ一木とともに、今に引き継ぐ 1300 年一」が認定（文化庁）
	8 月 3 日	ラオス人民民主共和国のルアンパバーン郡（現ルアンパバーン市）と交流に関する確認書を締結
	10 月 1 日	J R 高山駅新駅舎及び東西自由通路（愛称：匠通り）完成
	12 月 1 日	「高山祭の屋台行事」を含む「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録
	～年度末	ユネスコスクール登録 市内小学校 14 校 市内中学校 6 校
平成 29 年	3 月 23 日	高山市教育大綱の制定
	3 月 24 日	高山市平和都市宣言
	4 月 1 日	飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアがナショナルトレーニングセンター高地トレーニング部門の競技別強化拠点に再々指定
	4 月 1 日	子ども発達支援センター設置
	4 月 27 日	国道 361 号高根トンネル開通
	6 月 29 日	（一財）飛騨高山大学連携センターオープン
		地方自治法施行 70 周年記念 総務大臣表彰（総務大臣）
平成 30 年	2 月 1 日	国府児童館開設
	2 月 4 日～8 日	全国高等学校総合体育大会開催（スキー アルペン種目）
	3 月 24 日	高山都市計画事業高山駅周辺土地区画整理事業完成式典
	3 月 26 日	久々野多目的センター（愛称：虹流館くぐの）オープン
	7 月	平成 30 年 7 月豪雨災害 7 月 7 日 大雨特別警報発表
	7 月 10 日	ベトナム社会主義共和国のフエ市と友好協力関係に関する覚書を締結
	7 月 18 日	飛騨高山まちの体験交流館オープン
	8 月 1 日～4 日	全国高等学校総合体育大会開催（アーチェリー）

平成 30 年	9 月	台風 21 号の影響により市内各所で停電が発生
	11 月 26 日～27 日	第 20 回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 in 飛驒開催
	12 月 21 日	中華人民共和国の昆明市と友好都市提携
平成 31 年	3 月 20 日	東海北陸自動車道白鳥 IC～飛驒清見 IC 間 4 車線化完成
令和元年	6 月 27 日	乗鞍山麓五色ヶ原の森の新ルート「ゴスワラコース」開山
	8 月 4 日	第 68 回岐阜県消防操法大会開催（会場：飛驒エアパーク）
	11 月 1 日	フランス共和国のコルマル市及びコルマル都市圏共同体と経済、観光分野及び青少年の交流における協力協定書を締結
令和 2 年	2 月 22 日	高山市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
	4 月 1 日	母子健康包括支援センターを市保健センターに設置
	4 月 1 日	観光特化型バス「匠バス」運行開始
	4 月 1 日	全小中学校 学校運営協議会開始
	7 月	令和 2 年 7 月豪雨災害 7 月 18 日 大雨特別警報発表
	7 月 1 日	村半（若者等活動事務所）オープン
	7 月 5 日	市道下三之町本町線「行神橋」完成
	12 月 12 日	国道 41 号宮峠トンネル開通
令和 3 年	4 月 3 日	東京 2020 オリンピック聖火リレー開催 （高山陣屋前広場～高山駅西交流広場）
	5 月 21 日	「SDGs 未来都市」に選定
	6 月 21 日	飛驒高山移住定住サポートセンターを設置
	8 月 13 日	東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル高山市採火式開催 （会場：飛驒高山ビッグアリーナ）
令和 4 年	4 月 1 日	成年後見支援センターを設置
	4 月 11 日	飛驒高山にぎわい交流館「大政」オープン
	5 月 30 日	大韓民国慶尚北道安東市と友好交流促進意向書に署名
	7 月 1 日	（一財）飛驒山脈ジオパーク推進協会設立

高山市受賞歴

昭和 25 年	新日本観光地百選山岳の部「乗鞍岳」第 4 位入選（毎日新聞社）／高山市 ※飛騨高山が観光地として脚光を浴びる先駆けとなる
昭和 34 年	新農村事業優良賞（農林水産大臣）／旧朝日村
昭和 41 年	全国観光ポスターコンクール銀賞（日本観光協会）／高山市 ※野首家の炉辺の写真を載せた飛騨高山のポスターが入選
昭和 58 年	潤いのあるまちづくり優良地方自治体表彰（自治大臣）／高山市
昭和 61 年	保健事業推進功労表彰（厚生大臣）／旧荘川村
昭和 63 年	手づくり郷土賞（建設大臣）／高山市 ※魅力ある地域づくり、50 周年記念中橋公園整備などが評価された
平成元年	日本 CATV 大賞（郵政大臣）／旧国府町
平成 3 年	全国花のまちづくりコンクール大臣表彰（農林水産大臣）／旧丹生川村
平成 4 年	いきいき下水道賞（建設大臣）／高山市
平成 5 年	緑化推進大臣表彰（内閣総理大臣）／旧丹生川村
平成 6 年	クリーン・リサイクルタウン大臣選定（厚生大臣）／高山市
平成 7 年	農業構造改善事業大臣表彰（農林水産大臣）／旧清見村 ほくりく建設コンテストシビックデザイン部門優秀賞（北陸地方建設事業推進協議会） ／旧上宝村 ※たから流路工河川公園の景観・デザインへの配慮が認められた
平成 8 年	「世界に開かれたまち」地方公共団体表彰（自治大臣）／高山市 ※先進的な地域国際化推進のまち部門において取組みが評価された
平成 9 年	地方自治法施行 50 周年記念自治大臣表彰（自治大臣）／旧高根村
平成 10 年	都市景観大賞「都市景観百選」（建設大臣）／高山市 ※景観町並保存地区の都市空間の構成、意匠が優れていると認められた 保健事業大臣表彰（厚生大臣）／旧久々野町
平成 11 年	メロウグランプリ自治体施策分野優秀賞（メロウ・ソサイエティ・フォーラム）／高山市 ※福祉バス「のらマイカー」運行事業が評価された アメニティあふれるまちづくり優良地方公共団体表彰（環境庁・全国アメニティ推進協議会）／高山市 ※環境庁の推進する快適な環境づくりのモデルとして他の模範となった
平成 12 年	「甦る水 100 選」建設大臣賞（建設大臣）／高山市 ※清流宮川の再生が認められた 土砂災害防止建設大臣表彰（建設大臣）／旧上宝村
平成 13 年	優良公民館活動表彰（文部科学大臣）／旧宮村
平成 14 年	持続可能な地域社会をつくる日本の環境首都コンテスト総合 8 位（環境首都コンテスト全国ネットワーク）／高山市 ふるさとづくり賞主催者賞（あしたの日本を創る協会・読売新聞社・日本放送協会） ／高山市 全国花のまちづくりコンクール大臣表彰（農林水産大臣）／旧高根村
平成 15 年	全国観光ポスターコンクール銀賞（日本観光協会）／高山市 ※四季の風景写真をイラスト風にした温かみのある図案が評価された HOPE 賞（HOPE 計画推進協議会）／高山市 ※高山型住宅マニュアルの作成など住まいづくりの取組みが評価された
平成 16 年	優秀観光地づくり賞金賞（国土交通大臣）／高山市

平成 17 年	毎日・地方自治体大賞奨励賞（毎日新聞社）／高山市 ※安全・安心・快適なバリアフリーのまちづくりが評価された
	全国地域映像コンクール総務大臣表彰（総務大臣）／旧荘川村
平成 18 年	地域づくり総務大臣表彰（総務大臣） ※海外姉妹友好都市交流など地域の国際化推進が認められた
	毎日・地方自治大賞奨励賞（毎日新聞社） ※誰にもやさしいまちづくりの取組みが評価された
	緑化推進運動功労者大臣表彰（内閣総理大臣） ※高根地域の市民団体による山野草の花壇づくりが評価された
平成 19 年	エコツーリズム大賞特別賞（環境省） ※乗鞍山麓五色ヶ原の森の取組みが評価された
	平成 20 年
平成 20 年	地域づくり総務大臣表彰（総務大臣） ※誰にもやさしいまちづくりの取組みが評価された
	JTB 交流文化賞優秀賞（JTB） ※官民一体となった外国人観光客誘致の取組みが評価された
平成 21 年	国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰（国土交通省）
	平成百景に「高山」「北アルプス」が選定（読売新聞社）
平成 22 年	につけい子育て支援大賞（日本経済新聞社） ※幅広くきめ細やかな子育て支援策を日本一広い市に浸透させた取組みが評価された
	「岐阜の宝もの」に乗鞍山麓五色ヶ原の森が認定
平成 24 年	第 4 回観光庁長官表彰（観光庁） ※多言語による観光案内や情報発信など、長年にわたる外国人観光客誘致の取組みが評価された
	エコツーリズム大賞優秀賞（環境省・日本エコツーリズム協会） ※乗鞍山麓五色ヶ原の森の継続した取組みが評価された
	平成 25 年
平成 25 年	子どもの読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰（文部科学省、独立行政法人国立青少年教育振興機構） ※高山市図書館の子どもの読書活動推進の取組みが評価された
	平成 26 年
平成 26 年	地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰（国土交通省） ※地域公共交通の確保・維持に対する積極的な取組みが評価された
	第 9 回マニフェスト大賞優秀成果賞（マニフェスト大賞実行委員会）／高山市議会 ※総合計画に対する政策提言や市民意見交換会の取組みが評価された
平成 27 年	東海総合通信局長表彰 ※無料公衆無線 LAN 整備による外国人観光客誘致の取組みが評価された
	第 1 回ジャパン・ツーリズム・アワード 国内・訪日領域 地域マネジメント部門賞（ツーリズム EXPO ジャパン組織委員会） ※インバウンド拡大の取組みが評価された（地方都市のモデルとなっている）
	平成 28 年
平成 28 年	ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2016 最優秀レジリエンス賞（（一社）レジリエンスジャパン推進協議会） ※地域での支え合いの仕組みづくりを促進し地域コミュニティの強靱化を図る「協働のまちづくり」の取組みが評価された
	第 68 回保健文化賞（第一生命保険株式会社） ※地域特性に焦点をあてた健康増進計画を策定し、保健活動の推進、地域の健康水準の向上を図る取組みが評価された

平成 28 年	<p>第 60 回交通文化賞（国土交通大臣）／高山市長</p> <p>※海外戦略ビジョンを策定し飛騨高山の伝統文化を広く海外に発信するとともに訪日外国人の誘致を推進し国際交流の促進に尽力するなど観光立国の実現に寄与したと評価された</p>
平成 29 年	<p>土砂災害防止功労者表彰（栃尾小学校）（国土交通省）</p>
平成 30 年	<p>キャリア教育表彰（文部科学大臣）／高山市教育委員会</p>
令和 元年	<p>平成 30 年度全建賞（全日本建設技術協会）／高山市</p> <p>※高山駅周辺土地地区画整理事業の完成にあたり、官民一体となった取組みが評価された</p>
令和 2 年	<p>令和元年度消防功労者消防庁長官表彰（消防庁長官）／高山市消防本部・消防団</p> <p>※消防本部と消防団が連携を図り災害の防除と消防力の強化に努めた取組みが評価された</p>
令和 3 年	<p>エコツーリズム大賞（環境大臣賞）（環境省・日本エコツーリズム協会）</p> <p>※乗鞍山麓五色ヶ原の森の継続した取組みと五色ヶ原の森案内人の会の魅力発信の取組みが評価された</p>
	<p>令和 2 年度全建賞（全日本建設技術協会）／高山市</p> <p>※高山市若者等活動事務所「村半」の整備事業について、市民参加や学識経験者との共働により、建物の歴史的価値の維持、良好な景観形成、地域の活性化などを実現した点が評価された</p>
	<p>第 16 回マニフェスト大賞優秀賞（マニフェスト大賞実行委員会）／高山市議会</p> <p>※「高校生との意見交換会」により高校生の意見を政策に反映する取組みが評価された</p>

高山市の一日



出生(令和4年)
1.4人



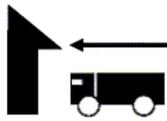
死亡(令和4年)
3.6人



婚姻(令和4年)
2.2組



離婚(令和4年)
0.5組



転入(令和4年)
6.4人



転出(令和4年)
7.3人



自主運行バス等
利用者数
(令和4年度)
529人



高山駅利用
乗車人員
(令和4年度)
1,072人



観光客入込数
(令和4年)
8,454人



上水道配水
(令和4年度)
37,387m³



下水道処理
(令和4年度)
下水道センター)
31,233m³



ごみ処理量
(令和4年度)
80.9t



火災発生
(令和4年)
0.06件



救急出場
(令和4年)
13.0件



犯罪発生
(令和4年)
0.8件



交通事故
(令和4年)
0.2件

※高山市で起こる出来事を各掲載項目より抜粋し、1日当たりの平均件数として表したものです。